

第二部 内定者の国家公務員採用総合職試験 体験記

この第二部では、内定者 8 名による国家公務員総合職試験、いわゆる筆記試験の勉強・対策方法をお伝えします。「選択試験ではどの分野を選ぼう?」「この勉強方法ってどうやるの?」「政策課題って何やるの?」と気になる理工系の方、試験対策の参考にしていただければ幸いです。

過去 3 年分 総合職理工系内定者の筆記試験の内訳

試験区分

■ 工学 ■ 化学・生物・薬学 ■ 数理科学・物理・地球科学



試験の種類

■ 大卒 ■ 院卒



勉強方法

■ 独学 ■ 予備校 ■ 学内講座



- ㊦ 本紙に記載している試験方法や内容は、H27 年度国家公務員採用試験について述べたものであり、H28 年度以降の試験とは試験時期や英語試験の活用などの点で異なる可能性があります。また、勉強方法や選択問題のオススメ等については、あくまでも内定者個人の見解に過ぎず、もし事実と異なった場合でも責任はとりにかねますことをご了承下さい。あくまでも、本紙は受験者様の参考程度としてご覧いただければ幸いです。

(参考)

H27 年度の試験から TOEIC、TOEFL、IELTS、英検のスコアに応じた得点が**試験の総得点に加算されるようになりました**。例えば TOEIC なら 600 点以上で 15 点の追加、730 点以上で 25 点の追加です。詳細は人事院のホームページをご確認下さい。

－ 簡単な国家公務員総合職試験の内容の説明 －

【一次試験（教養+専門）】

全てマーク式の筆記試験です。教養試験では選択問題はなく、専門試験では複数の分野から4～6科目選択し、必要数の問題を回答します。大卒区分と院卒区分では、教養区分と専門の問題数・配分が一部異なります。

この試験に合格することで、二次試験～人事院面接へと進めます。なお、教養試験はいわゆる大学受験におけるセンター試験をイメージされるとわかりやすいと思います。

【二次試験（専門）】

完全記述式です。基本的には、複数の分野から1～2問選択して回答します。

理工系においては専用の参考書などはあまりないので、大学の定期試験、院試、過去問や専門書による勉強が中心となるようです。過去問は人事院に開示請求すると入手できます。インターネットで希望する試験年度や開示媒体を申請し、手数料を収入印紙で納入します。

【政策論文】 ※大卒程度区分のみ

設問に関連して与えられる複数の資料を読み取り、その情報を踏まえて、自分の考えを織り交ぜながら結論を導きます。

資料は文章とグラフの両方が与えられ、英語の資料が用いられる場合もあります。

【政策課題討議】 ※院卒程度区分のみ

当日に配布された和文・英文の資料に時間内に目を通し、自分の意見などを加えた討論用のレジュメを作成します。そのレジュメを6人のグループ全員に配布し、各自のレジュメを踏まえて集団討論を行う試験です。

【人事院面接】

当日までに面接カードを記入して、基本的にその内容に沿って質問される個人面接です。面接時間はおおよそ10～20分程度で、面接官は3人（人事院の方と各省庁の現役の方らしいですが真相は不明）です。当日面接前に英語の加点を希望する人は、スコア原本とスコアコピーを持参します。

PN：よっと（工学区分/大卒）

1. 勉強量について

勉強開始時期：2015 年 4 月

勉強方法：独学

前年に合格していた友人の言葉を信じて 4 月から勉強を始めました。そのせいで一次試験はかなりギリギリになり、試験席次もギリギリになってしまったので、もう少し早く計画的に行ったほうが良いと思います…

【一次と二次をどうやって両立したか】

一次の前には一次の勉強しかしていません。二次は、友人にもらった前年の二次の問題を見たところ、大学院の入試問題と同じような範囲から出題されていたので、一次試験の後から始めても大丈夫と判断しました。

【専門と教養、論文/課題討議のバランスは】

勉強量 専門：教養：政策論文=2:1:0

教養は文系科目（特に法律）の対策方法がわからなかったため、文系科目は全く勉強しませんでした。二次試験でも勉強する必要のある専門を重点的に勉強しました。

【英語試験の勉強について】

英語は勉強していません。そのため英語試験の加点はできませんでした。

2. 勉強・試験内容

【教養試験】

法律や時事問題は直前から始めても対策が行えないと判断して理系科目での点数を取ること为目标としました。

勉強方法としては前年の試験問題を借りて問題に慣れることを中心にしました。参考書を使う勉強はしていません。

試験を受けて、数的理解や資料解釈は時間がかかるため他の部分でいかに時間を使わずに解くことができるかが重要になってくると感じました。事前の勉強の際に時間配分などを考えながら勉強をすることが良いのではないかと思います。

【専門試験（工学）】

● 専門一次

工学の基礎についてはセンター試験や大学 1 年の教養の物理で学ぶような難易度の問題が多かったので、主に高校の教科書や大学入試の時の参考書を使用して勉強をしました。選択問題については試験問題の都合上 4~6 科目受ける必要があるため、自分の専門科目や得意な科目だけで埋めることはできません。ですので残りをどの科目で受けるのかということも考えたほうが良いと思います。また、大学の範囲の問題では、数学や力学、電磁気などで公式を使う部分があり公式をおさらいしておかないと解けないので、対策をしておく点数を取りやすいと思います。

● 専門二次（流体力学、熱力学・熱機関）

院試を受けた人は院試の勉強を行えば十分だと思います。僕は院試の勉強で使用した大学の教科書や院試の過去問、前年の総合職試験の問題を解きました。二次は筆記なので、途中の計算過程をきちんと書いておけば答えまで出すことができなくても点数がもらえるのではないかと思います。

PN：白目 (工学区分/院卒)

1. 勉強量について

一次試験の二週間前に勉強を開始しました。学部の際にやった水理学と修士課程で扱っている環境工学を選択しました。水理学はそんなに深くはやっておらずかなり勉強しなおす必要がありましたので、丸々2週間は水理学の勉強に使いました。

【一次と二次をどうやって両立したか】

一次と二次で扱う専門科目はできるだけ一次試験の前に勉強を終わらせるようにしましたが、結局一次試験までに水理学の勉強が終わりませんでした。二次試験の一週間前には勉強が終わり、過去問を一通り解けるようになりました。

【専門と教養、論文/課題討議のバランスは】

教養試験の勉強は過去問を一年分解きました。課題討議の対策は行いませんでした。なので、勉強した9割方が専門試験の内容でした。

【英語試験の勉強について】

特に国総のために勉強は行いませんでした。

2. 勉強・試験内容

【教養試験】

試験の3日ほど前に去年の問題を一年分解きました。他には特に行いませんでした。

【専門試験（工学）】

- 専門一次
工学の基礎の参考書を一通り行い、二次試験で選択する予定の水理学と環境工学の勉強を行いました。それ以外は、高校でやった化学の内容を簡単に思い出したりしました。
- 専門二次（どの科目を選んだかを含む）
予定通り水理学と環境工学を選択しました。過去問を一通り解けるようになっておけば大丈夫です。

【政策課題討議】

ネットや友達に聞いてどういうものか調べたぐらいで、特に対策は行いませんでした。民間就活を少しやっていたら特に恐れる必要はありません。

【人事院面接】

ESを数回書き直して志望動機などを整理しました。同じく民間就活が活きます。

PN：からあげ定食（工学区分/院卒）

1. 勉強量について

（勉強開始時期、勉強法、勉強量等）

【一次と二次をどうやって両立したか】

3 月頃から過去問等を見始め、一次試験の 1 か月前頃から本格的に勉強を始めました。一次試験が終わるまでは完全に一次試験に集中し、二次試験の勉強は一次試験の試験日以降に始めました。しかし、一次試験の専門科目と二次試験の専門科目で同一科目を選んだので二次試験の準備時間が足りなかったということはありませんでした。

勉強は基本的に過去問を中心に進めました。専門試験の過去問は研究室に蓄積してあるものを使いましたが、人事院の制度を利用しても入手できるはずでした。

【専門と教養、論文/課題討議のバランスは】

専門と教養では、専門に比重を置いて勉強しました。学部時代や大学院入試で勉強したことの無い科目、勉強はしたが専門外の科目を選ばねばならず、時間がかかりました。

院卒者試験なので論文試験はなく、課題討議試験がありました。

課題討議の対策はしていません。民間就活も並行して行っていたのでグループディスカッションの経験はありました。

【英語試験の勉強について】

大学院入試のときに使用した TOEIC スコアをそのまま提出しました。新しく勉強したことは特にありません。

2. 勉強・試験内容

【教養試験】

一次試験の目標は 6 割に設定していたので、教養試験でも 6 割を目標にしました。数的推理をしっかりと取れば目標に届くと判断し、数的推理の勉強だけをしました。

本番では数的推理が大失敗しましたが、まぐれ当りを連発したため何とか合格しました。5 択の多肢選択試験ですが、明らかに違う選択肢を消していくと 2~3 択ぐらいまでは絞れることが多いので意外とまぐれ当りは期待できます。

【専門試験（工学）】

私の専門が化学物質のリスク管理なのですが、それに近い科目が試験の選択肢になかったため、専門の勉強が一番苦勞しました。学部時代、大学院入試、研究を通して勉強したことがあるのは、電磁気学、熱力学・熱機関[機械系]、環境工学（土木）・衛生工学の一部だけだったので、他の 3 科目はできるだけ高校で学んだ知識が活かせるような科目を選びました。

● 専門一次 【選択科目】

【技術論、基礎化学、情報基礎、電磁気学、環境工学（土木）・衛生工学、熱力学・熱機関[機械系]】

必須問題 20 題に加え、選択問題 6 科目 30 問から 20 問を選択して解答する形式です。

必須問題では工学の基礎と呼ばれる問題が出題されます。高校数学、物理の知識で解ける問題も多く、勉強は復習が中心になると思います。市販のテキスト等も発売されていて比較的勉強しやすいのではないかと思います。

選択問題では、今までに勉強したことのある電磁気学、熱力学・熱機関[機械系]、環境工学（土木）・衛生工学で 15 問を解答し、その他 3 科目で 5 問を解答する作戦で臨みました。しかし、本番では作戦通りにはいかず、その他 3 科目から予定よりも多く解答することになってしまいました。自信を持って解答できる科目が 4 つあれば安心かもしれません。

● 専門二次 【選択科目】

【熱力学・熱機関[機械系]、環境工学（土木）・衛生工学】

一次と同様に過去問を中心に勉強しました。過去 5 年分の問題を解きながら教科書、インターネットなどで周辺分野を固めていきました。

環境工学（土木）・衛生工学は B の上水道・下水道に関する問題を選択しました。図書館で借りてきた上水道工学、下水道工学の教科書での勉強に加え、インターネットで近年の上水道、下水道に関する政策を調べました。

熱力学・熱機関[機械系]では、過去 5 年間で共通した傾向があり、範囲をかなり絞って勉強できたため、かなり楽でした。

【政策課題討議】

特に対策はなし。民間就活で何度もグループディスカッションを経験していたので大丈夫だろうと考えました。

最初に賛成か反対か自分の意見を述べる時間があり、最後に議論を受けての最終的な自分の意見を述べる時間がありました。最終的にグループ全体で意見を統一する必要がないところが民間のグループディスカッションとは違うなと感じました。

【人事院面接】

前日にエントリーシートを見直し、質問されるであろう内容を整理したぐらいです。エントリーシートに書いた内容に沿ってごく普通の質問をされたように思います。

PN：えび (工学区分/院卒)

1. 勉強量について

(勉強開始時期、勉強法、勉強量等)

勉強を本格的に開始したのは一次試験の2か月ほど前。教養の勉強はほぼ過去問をやっていました。専門は過去問と、学部時代の参考書を一からやり直しました。勉強時間は一日だいたい6-7時間以上はやりましたが、全く余裕がなかったのもっと早い時期から開始したほうが絶対いいと思います。

【一次と二次をどうやって両立したか】

結論から言うと、両立はあきらめました。とりあえず一次を受かることだけ考えて、二次は一次が終わった翌日から始めました。ただし、専門は二次と共通する部分が多いので、基礎からしっかりやれば一次の対策がそのまま活きると思えました。

【専門と教養、論文/課題討議のバランスは】

正直、教養はきちんと両立するには最低半年くらいかかると思ったので、配点が大きいところ、取りこぼしなさそうなところ、頻出問題を重点的にやり、あとは流しました。時間配分でいうと、一次については専門：教養を6：4くらいで勉強しました。二次は5：5くらいです。

課題討議は対策のしようがないと思ったのと、民間での集団面接や大学のゼミで求められる以上のものはないと勝手に思っていたこともあり、直前の1日くらいしか割きませんでした。

【英語試験の勉強について】

大学院の入試のために勉強していい点が取れていたもので、それを利用しました。なので、公務員試験のためには何もしていません。

2. 勉強・試験内容

【教養試験】

過去問をひたすらやっていました。最初一瞬だけ問題集に手をつけましたが、時間があまりなく、実践に勝るものはないと考えて、すぐ辞めました。英語、国語が得意だったので、そこは全問正解できるようにしました。数的処理はインスピレーションが降りてくるかどうかの運もあるので、テクニックが必要な問題以外は勉強していません。知識問題も同様に捨てました。資料解釈は時間さえあれば解けるので、慣れておいて損はなかったと思います。

【専門試験（工学・一応土木）】

私は水理学と衛生工学をとりました。

- 専門一次
過去問を解き、分からない問題にあたると参考書で勉強しなおすというヒットアンドアウェイ方式で勉強しました。かなり時間を割いたし、その価値もあったと思います。市販の問題集と、グーグルさんにも非常にお世話になりました。

- 専門二次（水理学、衛生工学）

一次とほぼ同じですが、こちらはかなり参考書とにらめっこする時間が増えました。

【政策課題討議】

どんなことをするのかネットで調べたぐらいです。レジュメを作ると聞いて、A4一枚で表現するならこんな感じかなーとイメージを膨らませていました。1,2日あればよいのではないのでしょうか。普段どれだけゼミなどで発言しているかがモロに出る気がします。

【人事院面接】

ES を丁寧に取りました。民間企業の面接を受けた人であれば、あまり本格的な対策は必要ないかと思います。

PN：森ガール (工学区分/院卒)

1. 勉強量について

修士1年の12月に環境省で働いている先輩に会い、受験する区分を決定(工学、生物・化学・薬学、森林・自然環境のいずれかで受験するか迷っていた)。年明けから、大学の講義ノートや教科書をちらちら読み返すように。2年になり、過去問に手を付ける。一次も二次も、試験前二週間が本気(笑)10~12時間/日は試験勉強の日々。

【一次と二次をどうやって両立したか】

一次も二次も、専門試験は範囲が被るので自然と両立出来る。

【専門と教養、論文/課題討議のバランスは】

9割専門、1割教養、課題討議に関しては、直前期に時事に関する関心を高めた程度。

【英語試験の勉強について】

TOEFL 受験時は市販の参考書を用いて勉強。

2. 勉強・試験内容

【教養試験】

過去問3年分。

【専門試験】

● 専門一次

専門共通は4年分過去問を解き、分からなかったところを高校時代のノートを引っ張り出して確認。選択問題は、公務員試験用の土木の参考書を一冊購入して勉強。構造力学、水理学に関しては大学の講義ノートや教科書での勉強がメイン。過去問4~6年分を解いて、参考書で足りない部分はネットで検索。ネットにあがっている講義資料なんかは結構良い物があって重宝した。

● 専門二次 (どの科目を選んだかを含む)

構造力学と水理学で受験。過去問7年分について、講義ノート、教科書、参考書、友人を駆使して解答を作成。参考書は探すのが大変だったが、構造力学の方は試験前一週間で切っけかなり良いものに出会えた。友人というのは、それぞれの分野を専門とする大学の同期で、過去問の解答、解説を作ってくれるようお願いした(笑)一人なんか、一次試験の時から何度もカフェに呼び出して何時間も教えさせて。あれがなければ受からなかった。本当に感謝。

【政策課題討議】

時事ニュースをまとめた本や新聞を読み、テレビのニュース番組も良く見るようにしていた。

【人事院面接】

特に対策なし。聞かれたことに答えればOK。強いて言えば、面接までに積極的に友人と出掛け、将来やりたい事等について語り合う機会を設けると良いのでは。

※政策課題討議と人事院面接に関してほぼ対策なしで臨んだのは、決してなめていた訳ではなく、専門記述の手応えでこれは落ちるなと思っていたから。そのため、企業へのES提出や全てダメだった場合の身の振り方を考えることに忙しかった。また記述試験後しばらくは、落ち込んで何も手に付かなかったということもある。

PN：インダノン (化学・生物・薬学区分/院卒)

1. 勉強量について

(勉強開始時期、勉強法、勉強量等)

勉強を本格的に開始したのは6~7ヶ月前くらいです。いわゆるブラック研究室というやつに所属していたため勉強時間が限られてしまいました。主に朝7時から9時すぎまでと夜の10時から12時くらいまでが勉強時間でした。かなり前もって始めたのでトータルではかなりの勉強時間を確保できたと思います。始めるのは早ければ早いほどいいと思います。勝負事なので、人より少しでも多くやるぞという気持ちでいました。

【一次と二次をどうやって両立したか】

一次、二次という分け方をせず、教養(基礎教養試験・面接向けの自己分析・討議向けに常識勉強)と専門(マークとか記述とか考えずとにかく知識を蓄えました)という分け方で勉強を行ないました。

【専門と教養、論文/課題討議のバランスは】

一次も二次も専門科目に関しては日頃研究室で使っている部分が多かったのでそこまで苦勞しませんでした。しかし教養が思っていたより難しく苦戦しました。とにかく解く時間がないので頭をフル回転させて1秒でも早く解けるようにしました。具体的には慣れるためにとにかく毎日問題を解きました。毎日やり続けたことが良かったです。討議はやったことがなかったので(研究室のミーティングとはちょっと感じが違うと思います)、とにかく基本的なマナーを最低限習得しておこうと思って本を読みました。あとは基本的な政策や最近のトピックスに触れておこうと思って、新聞や白書を読んで自分なりの考えを100字くらいでつけるということをやりました。

【英語試験の勉強について】

時間がなくTOEICはうけることができませんでした。せっかく加点がもらえるし、英語は絶対にこれから重要なので時間があれば受けるべきだと思います。

2. 勉強・試験内容

【教養試験】

とにかく時間がないです。一問あたり約5分で解かないといけません。まずは慣れだと思いとにかく毎日解きまくりました。そして基礎教養には30問中なんと3問も時事に関する問題が出ます。そのため新聞を毎日読んで少しでも多くの知識を溜め込みました。

【専門試験(化学・生物・薬学)】

● 専門一次
知識を問う問題が多いなと過去問をみて思ったので、とにかく学部レベルの教科書を何冊も読みまくりました。ここに読書好きという趣味が活きました。

● 専門二次(有機化学・薬化学)
有機化学はもろ専門なので特に公務員試験にむけた勉強はしていません。普段、研究室にいて実験していることが対策になっていたと思います。もう一つは物理化学・分析化学・薬化学から一番できそうなやつを選ぼうと思い毎日教科書をよんで知識を蓄えました。私は、学部は工学部応用化学科、院は薬学系研究科というエッセ薬学生なので薬化学はきついかないと思いましたが意外と一番解きやすかったです。

理系の総合職試験の場合なかなか試験用の解説書みたいなものがないので、院試勉強をする感じで、学部の期末テスト・院試過去問の復習、教科書をもう一度読み込む(知識をかなりとわれるので広く浅くやるのがいいと思います)をするのが一番の対策だと思います。

【政策課題討議】

どういう形式なのかネットで検索しました。
討論が初だったのでマナーの勉強。
政策知識をつけようと思って新聞や白書を読み、そこに自分の意見を軽くつけるという事をやりました。

【人事院面接】

面接のマナーを勉強しました。
ES のできが面接結果を左右するときいたので書いては添削してもらおうという事を繰り返しました。大学のキャリアセンターの方には本当にお世話になりました。
自己 PR をするのがなんかむずかゆかったので、自信をもってできるように自己 PR に書いてある自分になろうと努力しました笑

PN：梟 (数理学・物理・地球科学区分/院卒)

1. 勉強量について

(勉強開始時期、勉強法、勉強量等)

開始時期：2015 年 1 月 勉強方法：独学(参考書・過去問・院試復習)

勉強量：苦手分野は 2 周

【一次と二次をどうやって両立したか】

一次が意外と落とされるので、一次突破を目標としてがんばりました。二次試験は院試勉強のノートを復習して、過去問で練習したのみです。

【専門と教養、論文/課題討議のバランスは】

専門：教養：課題討議=2:3:0でした。

一次落ちないようにがんばって、1 次の採点結果を見てから 2 次の専門の勉強をしました。討議課題の勉強はしていません(民間就活でグループディスカッションをやっていたから大丈夫だと思った)。

【英語試験の勉強について】

TOEIC テストの 2 週間前からつめこみで英語勉強した。TOEIC の公式問題集をパートごとにとやりました。

2. 勉強・試験内容

【教養試験】

過去問がまとまった参考書を一通り勉強し、苦手な分野は繰り返して問題に慣れました。試験当日、解くのに時間がかかる問題は飛ばし最後に解くように気をつけました。国語や社会科目はノー勉で臨みました。時事は全く知らなかったなので、新聞を読むように気をつけたのと、時事関係の参考書を使って勉強しました。

【専門試験 (数理学・物理・地球科学)】

大学院生ならば予備知識でなんとかなると思います。

- 専門一次

数学・物理は過去問が整理された参考書で勉強しました。地球科学に関しては化石や地質年代を覚えるようにしました。解けない問題に関しては図書館で専門書を見て調べていました。
- 専門二次 (どの科目を選んだかを含む)

地質学を選びました。院試勉強のノートの見返しと過去問 10 年間分ぐらいは解きました。記述の答えはないので、友人や教授に採点してもらえば良かったと思っています。

【政策課題討議】

全く勉強はしていません。しかし初めての受験だったので、どのように討議するのか情報収集はしました(web/経験者に聞く)。その場で自分はどう振る舞えばいいのかは考えて臨みました(実際は思った通りに討議できませんでしたが)。

【人事院面接】

民間就活で場数を踏んでいたもので、特別な練習はしませんでした。ES 通りに突っ込まれるので、ES に何を書いたのかは頭に叩き込んでいきました。人事院面接でお会いした面接官の方が、後日の官庁訪問でもお会いして(某省庁の偉い方だった)びっくりしました。人事院面接には、人事院の方と各省庁の方が面接官として参加されるようです。人事院面接の ES 内容と官庁訪問の際の ES の内容に差異がない方が良いかもしれません。

PN：実は眼鏡 (数理科学・物理・地球科学区分/院卒)

1. 勉強量について

(勉強開始時期、勉強法、勉強量等)

勉強開始時期：1月

勉強方法：独学

【一次と二次をどうやって両立したか】

両立していませんでした。二次試験の勉強は一次試験直後から始めましたが、もう少し早めから始めておくべきだったと後悔しています。民間就活もしていたため、6月に説明会やセミナーが立て込み、勉強に専念できなかった...

【専門と教養、課題討議のバランスは】

教養:専門(1次):専門(2次):討論のバランスは時間で見ると3:3:1:1くらいだと思います。時期で言えば、1~5月は教養と専門(1次)、6月は専門(2次)。

【英語試験の勉強について】

英語試験はTOEICを選択しました。一度何も勉強せずに受験し、自分の現状と問題の傾向を把握して、3ヶ月後の二回目の試験に向けて勉強し、無事目標点に到達しました。リスニング、文法、リーディングそれぞれ一冊ずつ参考書を買って、少ない時間でも良いので毎日触れることを心がけました。

2. 勉強・試験内容

【教養試験】

数的・判断推理、資料解釈、文章理解、時事から構成される試験です。

まずは1月ごろに過去問を解いて傾向や難易度を把握。

数的・判断推理・資料解釈については、問題慣れが大事だと感じたので、参考書を買って、毎朝一時間くらい、頭の体操として勉強していました。資料解釈は焦らずに解けばなんとかなる印象。時事は知っているか知らないか。問題数の少なさから、勉強のコスパが悪そうだったので、新聞を読む程度しかしておりません。

【専門試験(物理・地球科学・数学)】

● 専門一次

科目ごとに過去問5年分を解いて、出題傾向を把握。私は専門が地球科学ですが、物理や統計も扱う専攻だったので、主に物理、地球科学(気象学)、数学(確率)を解くつもりで対策しました。人事院に請求した過去問にはもちろん解答も掲載されていますが、正解番号の情報しかないので、なぜその解答になるのかを講義ノートや参考書を使って考えることが良い勉強となりました。

専攻によっては、自分の専門外を解かなくてはならない人もいますので、まずは過去問を数年分確認することをお勧めします。ちなみに過去問を入手したいと思い、人事院に請求してから、実際に入手するまで2週間程度かかりました.....

● 専門二次

熱力学と気象学の2題を解くつもりで対策しておりました。が、時間があればもう1科目対策しておくべきでした。実際には、熱力学が出題されて救われた訳ですが、3科目は解けるように準備しておいた方が良いでしょう。

勉強方法は1次同様、過去問を解きながら復習していました。

気象学を対策する方はロスビー波と慣性重力波の出現確率が非常に高いので、絶対に復習しておきましょう！

【政策課題討議】

特に対策という対策はしていませんでした。

普段大学等でディスカッションをする機会があまりない人は民間就活のディスカッションを受けておくと良いかもしれません。

【人事院面接】

試験までに準備する面接カードに沿って面接が行われます。

民間企業の面接との大きな違いは、なぜ公務員なのかという質問が必ず来ることです。これについては、面接カードを作る際にしっかりと考えをまとめる必要があるでしょう。

その他の質問は民間面接とほとんど変わりませんので、民間面接を受けて、面接慣れしておくと良いかもしれません。